



TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



東海大学付属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日／2018年9月1日

●発行者/東海大学付属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

第50回 剛健旅行実施

TOP*NEWS

剣道部 白澤君 インターハイ出場!

ダンス部 全国大会 審査員特別賞受賞!

ラグビー部 稲田君、篠崎君 全国合同チームに選抜される



[剛健旅行] いよいよスタート!



[剛健旅行] キャベツ畑の中をひたすら歩きます!



剣道部



ダンス部



ラグビー部 左: 稲田君、右: 篠崎君



野球部

剛健旅行 第50回記念!!

目的

- 質実剛健の精神を養う。
- 歩くことに関心を持ち、その意義を考える。
- 自然の中で改めて自分を見つめ直す。
- 友達と協力し、最後まで歩き通すことでの達成感を味わう。



1,401名参加
完歩率94.8%

今年は剛健旅行第50回という節目の年でした。50回を記念して今月号の「飛躍」では、かつての剛健旅行の様子を交えてお伝えします。

結果発表



高校男子トップ10(36.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	9	生魚 雄利	陸上競技
2位	3	10	秋田 陸	陸上競技
3位	2	6	米澤 春哉	陸上競技
5位	2	6	鈴木 拓真	陸上競技
6位	3	7	小泉 陸	陸上競技
7位	1	9	金井 宏太	陸上競技
8位	1	2	及川 優汰	陸上競技
9位	2	3	守屋 浩次	サッカー
10位	3	9	佐光 隼翔	サッカー
	3	3	笹田 年紀	サッカー
	3	3	足立 考	サッカー

高校女子トップ10(30.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	6	中嶋 涼嘉	女子バレーボール
3	6	佐藤 佳菜	女子バレーボール	
1	4	清宮 優希	女子バレーボール	
2	1	津吹 日菜	女子バレーボール	
1	1	中山 千夏	女子バレーボール	
6位	1	4	宇都宮 萌	女子バレーボール
1	1	大箭 咲空	女子バレーボール	
8位	3	2	岡田 理紗	女子バレーボール
9位	3	5	佐々木里佳子	柔道
10位	1	2	内田 菜央	柔道

中等部男子トップ10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	1	B	中西 力也	サッカー
(2時間19分)	2	A	福田 弘樹	男子バスケットボール
3位	3	A	山本 真矢	ソフトテニス
4位	3	B	小西 智也	男子バスケットボール
5位	3	A	佐藤 真洸	男子バスケットボール
6位	3	A	日比野祐大	サッカー
7位	1	B	木村 海斗	陸上競技
	1	A	木村 陸斗	陸上競技
9位	3	B	曾根原幹人	ソフトテニス
	3	A	松本 翔真	サッカー
	3	B	山田 貴大	サッカー

中等部女子トップ10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	B	山田 理莉	陸上競技
(2時間57分)	3	B	高橋 真凜	陸上競技
2位	1	A	片岡 姫菜	女子バスケットボール
3位	3	B	有井 貴恵	陸上競技
4位	3	B	内田 七彩	女子バスケットボール
5位	3	B	小泉 茉花	女子バスケットボール
6位	2	A	大張 佳音	女子バスケットボール
7位	1	B	鈴木 真帆	陸上競技
8位	1	B	江頭 一華	女子バスケットボール
9位	2	B	土橋 愛重	ソフトテニス
10位	3	B		



高校男子 第1位

3年9組 生魚 雄利

剛健旅行は私にとって楽しい思い出です。1年生の頃、初めて剛健を走りました。高低差は少なく、あまりつらくなかった行事を想像していました。しかし実際の剛健は高低差がとてもあり、とてもつらい行事でした。結果はトップ10に入る事がやっとでした。そして、2年生となり、コースも覚えていましたが、その年のレベルはとても高く、5位という結果で終わりました。

高校女子 第1位

今年度は5人同時ゴールにより、代表で3年生二人に感想を書いてもらいました

仲間の大切さを知った剛健旅行

3年6組 佐藤 佳菜、中嶋 涼嘉

今回の剛健旅行は記念すべき第50回目の剛健旅行でした。当日はとても天気の良いなか、剛健旅行を行うことができました。

私たち女子バレー部は、先輩から年々受け継がれている「走り」という伝統を今年も受け継ぎ、仲間と励まし合いながら30kmを走り切ることができました。スタートダッシュや最後に立て続けにある大きな坂が山場でつらかったのですが、仲間と声を掛け合い乗り越えました。一緒に走った5人で同着1位になれたことが何よりもうれしかったです。この先も1位を受け継いでいってほしいです。

今回の剛健旅行を通じ、仲間の大切さを実感することができたので、部活動でも仲間を大切にして頑張っていきます。



左から中山さん、清宮さん、津吹さん、佐藤さん、中嶋さん

中等部男子 第1位

今年度は二人同時ゴールでした

絆が深まった剛健旅行

2年A組 福田 弘樹

今年の剛健旅行は第50回という節目の回だったので、僕も頑張って1位を取りたいと思っていましたが、1位が取れてとてもうれしかったです。初めの方は走っている時はとても疲れていたのですが、中間地点を過ぎると「疲れた」という気持ちよりも、「もう歩きたくない、限界だ」という気持ちの方が強くなってきました。そんな時、僕を支えてくれたのは、応援してくれたクラスメートと一緒にゴールした1年生の中西君でした。みんなの励ましがなければ、1位になることはできなかったと思います。みんなに感謝したいです。来年の剛健旅行も仲間と励まし合って、いい思い出を作りたいです。

初めての剛健旅行

1年B組 中西 力也

スタート前は、体がガチガチで走れるか心配でした。いよいよ剛健がスタートして、僕はトップの先輩たちについていくことにしました。そして先輩たちを抜かしていき、あたりを見渡すと誰もいなくなっていることに気が付きました。初めての剛健旅行だったので、だんだんと道があるかないかも不安になってきました。でも、途中先輩に会い、一緒に走ることになりました。二人で励まし合いながら走り、ゴールへ向かいました。キツイ坂も先輩と一緒に走ったから登れたのだと思っています。二人でゴールした瞬間、とても気持ち良かったです。来年も1位を目指し頑張りたいです。

中等部女子 第1位

初めての1位!

3年B組 山田 理莉

今回は私にとって中等部最後の剛健旅行でした。1年生の剛健旅行の時は歩き、2年と3年の時は走りました。去年は3位だったので今年は絶対1位を取りたいと思っていました。初めは友達と4人で走っていましたが、途中からそのうちの二人で走り始めました。坂が永遠に続くようで、足が疲れ果てて、もう限界だと思います。残り3kmのところで一人で走り始めました。その時はもう気合いだけで走り続け、最後は1位でゴールすることができました。来年は高校生になります。1位になれた中等部最後の剛健旅行は一生忘れません。



剛健旅行の昔と今

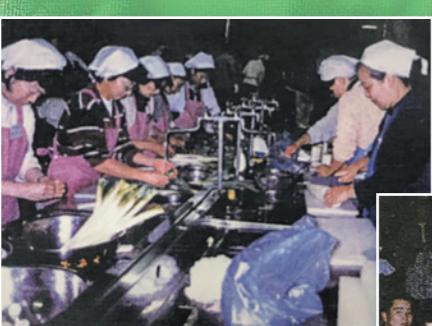
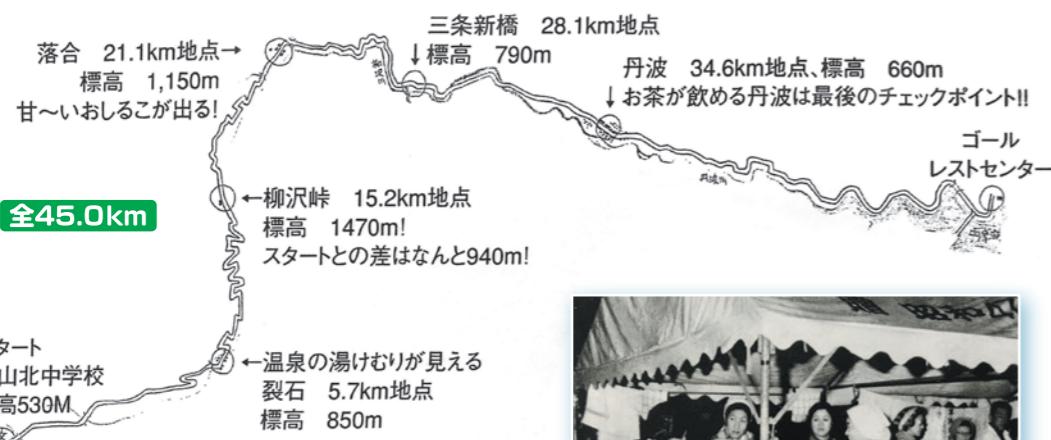
剛健旅行第50回記念!!



第15回



過去のコース例



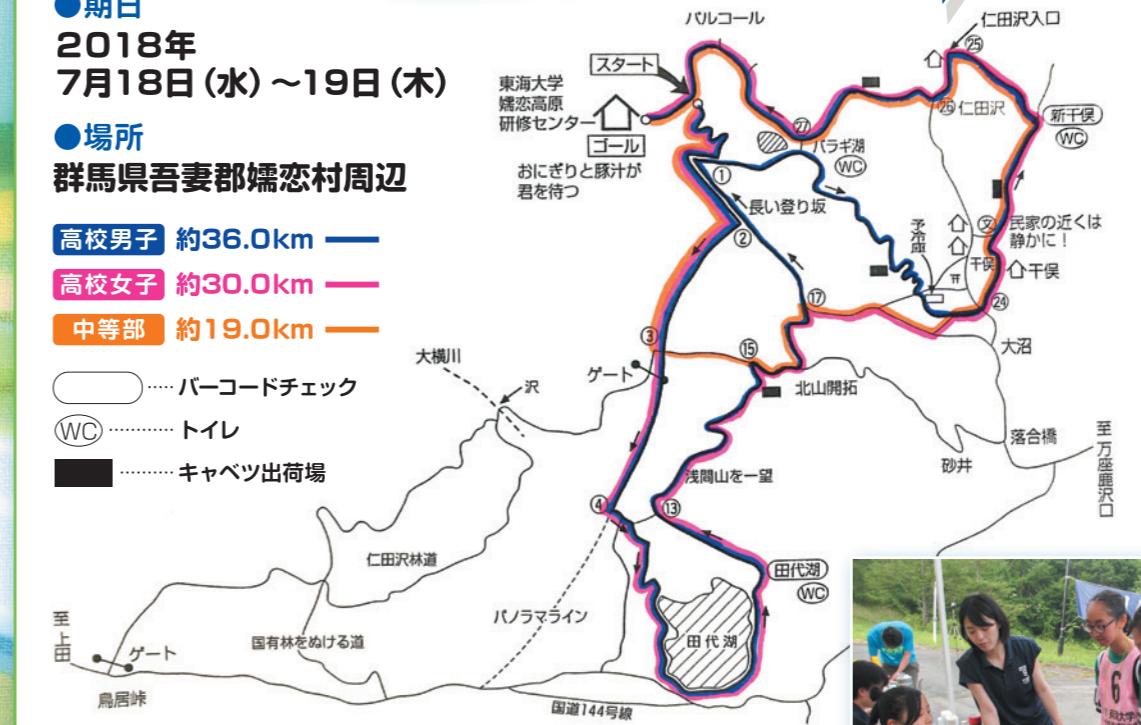
現在のコース

●期日
2018年
7月18日(水)～19日(木)

●場所
群馬県吾妻郡嬬恋村周辺

高校男子 約36.0km
高校女子 約30.0km
中等部 約19.0km

-バーコードチェック
- (WC)トイレ
-キャベツ出荷場



50回を迎えた 剛健旅行

校長 片桐 知己治

7月18日から19日にかけて、本校恒例の「剛健旅行」が実施されました。今年の「剛健旅行」は通算50回目という節目の旅行となりました。また、現在実施している嬬恋高原では29回目の剛健旅行となりました。第1回の「剛健旅行」に参加された最初の卒業生は、すでに65歳を超えています。卒業生の中にはお子さんも本校に入学され、親子で剛健旅行を体験された方もたくさんいます。

第1回の「剛健旅行」は1969年(昭和44年)10月、八王子のはるか奥、東京都の奥多摩レストセンターから山梨県の塩山市立南小学校までの小石の転がる国道を約50km歩いたとするされています。その時はもちろん高校のみの男子校でした。その後、千葉県九十九里浜、東京都五日市町から奥多摩川野とコースを変え、第22回から、現在の嬬恋を歩くようになりました。

剛健旅行は、研修旅行、建学祭、体育祭などと並ぶ大きな行事の一つです。そして、他の行事と異なるのは、卒業生のすべてが、コースこそ違ってはいても、同じような感想を持ち、思い出を語り合えるということだと思います。

実際に山道を歩いた生徒の皆さん、徹夜でトントン汁やおにぎりを提供していただいた後援会の皆さん、私たちを温かく迎えてくれた嬬恋村の皆さん、生徒の皆さんの安全を守ってくれた教職員の皆さん、そのすべての方々の協力で、今年も剛健旅行を実施することができました。感謝申し上げます。

私たちは、第60回、第70回の剛健旅行に向けて、次の一步を踏み出したいと思います。



第50回剛健旅行に 参加してみて

後援会会長 藤方 雅志

私の母校でもある学校の行事に後援会会長として関わることになります。まず最初に思ったことは、まだ剛健旅行があり、半世紀という長さにわたり脈々と続き、本校を代表する一大行事になっていることに驚きました。当時は奥多摩で秋頃に開催されており、高校3年生になった年に初めて嬬恋村に変更になりました。確かに(旧校舎)グラウンドがないため、春は湘南校舎でスポーツ大会、秋は体育祭の代替行事として剛健旅行をすると先生から聞きました。当時は夜通し歩くことに意味があるのか?と思っておりましたが、同級生と会うと剛健旅行の話をよくします。一番の思い出は、星がきれいだと、キャベツ畑だと、完歩したことよりも、帰りのバスが早朝五反田駅に着き、足がすごい筋肉痛で、階段の上り下りが非常につらい。旧校舎は階段しかなく、毎日階段の上り下りの試練に耐えていました。もちろん当時からゴール地点でトントン汁はありました。開催が秋でしたので、夜は冷えており、ゴールの少し前から見える湯気に向かい、トントン汁を食べ、その温かさに完歩したんだと実感していました。今は後援会として参加し、子供たちのためにトントン汁を作り、子供たちがゴールし美味しいように食べてくれる笑顔が、最高の報酬です。



Boys, be ambitious. 少年よ大志を抱け!

嬬恋村村長 熊川 栄

記念すべき、「第50回剛健旅行」大変お疲れ様でした。

「剛健」とは、心が強く心身が健康なことという意味で、まさに体はもちろんのこと精神力までも鍛える旅行であります。そのような大変有意義な意味を持つ旅行を、わが嬬恋村で開催していただいていることに、感謝申し上げます。

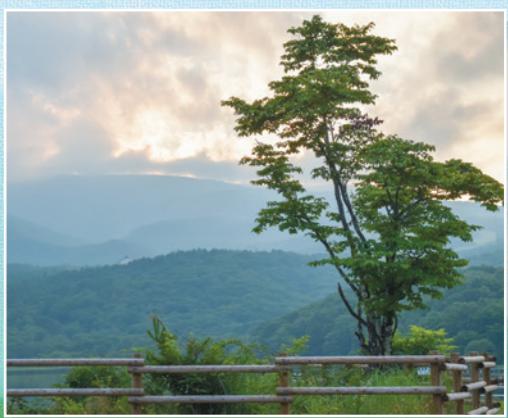
皆さんが歩いたバラギ周辺は標高1,400mの大変涼しく過ごしやすい場所ではありますが、今年は全国的に暑い夏となっており、例年以上に大変な旅行になったのではないかでしょうか。

また、皆さんが歩いたコースの沿線には、嬬恋村が生産量日本一を誇る「夏秋キャベツ」の畠が広がっており、大変景色のいい場所ではあります。坂道の多いきついコースもあります。歩く人、走る人などさまざまなスタイルがありますが、ゴールという目標に向かい足を進めること、そしてゴールしたときの達成感は一生の思い出、一生の宝となつたことだと思います。

私は、「Think global! Act local」「地球規模で考え、地域で行動する」の信念を持って日々過ごすことを心掛けております。皆様もこの剛健旅行で鍛え上げた精神力で、強い信念を持ってください。そして思い出の地、嬬恋村を第二のふるさとと思い、また足を運んでいただけたらと思います。

皆様の今後の活躍を、心よりお祈り申し上げます。

剛健旅行第50回記念!!



第50回剛健旅行に 寄せて

剛健旅行実行委員長 宇津 浩

本校の一大イベントである剛健旅行が7月18日、19日の両日に群馬県嬬恋村で開催されました。今回で50回目の開催を迎え、半世紀にわたり剛健旅行のような大きな行事を継続してこられたのは、歴代の教職員、卒業生、後援会の皆様はもとより、開催場所としてお借りしている嬬恋村の皆様のご理解、ご協力のお陰であると深く感謝しております。

記念すべき50回目の剛健旅行は、記録的な猛暑と言われるほど暑い日が続く中で開催されました。東京に比べれば、涼しさを幾分感じることができましたが、嬬恋でも暑いと感じるほどの快晴でした。「剛健旅行では必ず雨が降る」と言われ続けてきましたが、ここ数年は雨が全く降らない年もあり、50回の歴史を刻む中で少しづつ気候にも変化が出てきているかも感じました。生徒たちは、抜けるような青空のもと、嬬恋村名産のキャベツが青々と広がる中を仲間たちと励まし合いながらゴールを目指していました。

この剛健旅行には多くの人々が関わっています。参加する生徒はもちろん、運営する教職員、後援会の皆様、嬬恋村の皆様など、それぞれの立場でさまざまな思いを持って剛健旅行に参加しています。今後も剛健旅行が携わる全ての人々の良き思い出になるとともに、未永く開催され続けることを心より願っています。





部・同好会活動報告

剣道部

全国高等学校総合体育大会 出場

インターハイ出場!

3年1組 白澤 智也

剣道部にとって初めてのインターハイ個人出場となりました。入学してから3年間「全国制覇」を目標に厳しい練習を重ねてきました。今まで結果を出すことができなかったなか、今回インターハイに出場できたことはとても嬉しく思います。インターハイでは残念ながら1回戦で延長の末敗退(対戦相手の磐田東高校:野瀬選手は3位入賞)していましたが、インターハイという大舞台で試合を楽しむことができました。今回インターハイに出場できたのは、日頃から指導してくださった先生方、今まで一緒に練習してきた仲間、支えてくれた家族やOB・OGの先輩方、応援してくださった皆さんのおかげです。応援ありがとうございました。これからも高輪台高校剣道部は「全国制覇」を目標に、チーム全員で頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。



ダンス部

全国高等学校ダンスドリル選手権大会2018
審査員特別賞 受賞!

私たちのイチ夏

ダンス部部長 3年2組 丸山 百葉

私たち、ダンス部は7月31日～8月2日に大阪市中央体育館で行われた全国高等学校ダンスドリル大会に出場してきました。3年生である私たちにとって最後の大会でした。全国優勝という大きな目標は達成できませんでしたが、審査員特別賞をいただくことができました。

この賞をいただけたのは、普段私たちを支え、応援してくださっている方々のお陰です。一番そばで応援してくださる顧問の先生、コーチ、後輩…「頑張れ!」と声をかけてくれる友達や先生方。つらい時は励ましの言葉をかけ、嬉しいことがあると自分のことのように喜んでくれる家族。そして、つらい練習の中でぶつかり合いながらも、前向きな声をかけ合ってきた仲間がいたから、最後の大会で最高の演技をすることができました。悔しい思いもありますが、3年生全員で! 1位を取りたい! という強い想いが審査員の方々に伝わり評価していただけたことは、私たちがこの大会で一番得られたことだと思います。



ダンス部をいつも応援してくださっている方々に、少しでも恩返しができるよう、私たちは今まで以上にダンスを楽しみ、自分たちのダンスを大切にしていきます。ぜひ私たちのダンスを見に、建学祭と、今年初めて行うダンス部の公演(11/9)に来てください。

ラグビー部

全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会
KOBELCO CUP 2018 出場

最高の経験

3年4組 稲田 凜

私は関東代表として7/31、8/2に行われたKOBELCO CUPに出場しました。高輪台からは2年連続で選出されていて、その先輩方の大会はどちらも優勝しており、今回の大会では関東の3連覇がかかっていました。チームのコンセプト「Reaction&Communication」のもと3月の関東大会から戦っていました。ところが、結果は2位で、3連覇を達成することはできませんでした。優勝できなかった悔しさは残ったものの、最高のメンバーで試合ができたという達成感がありました。試合に出た時間は短かったけれど、得られた経験はとても大きいものでした。この経験を生かして高輪台の最後の大会に向けて努力していきたいです。



全国合同チームメンバーと

悔しい

3年10組 篠崎 友希

今年は3連覇がかかった大切な大会でした。しかし、得失点差で東海ブロックに負けてしまいました。KOBELCOの予選リーグでは東北と北海道ブロックに無失点で勝ち、決勝リーグの1試合目の九州にも無失点で勝つことができ、勢いがついていた関東ブロックでしたが東海ブロックに先制され、ラストプレーでもトライされてしまい、東海ブロックに負けてしまい、九州と東海ブロックの結果待ちに。結果は九州が勝ち、勝ち点は全チーム同じになりました。しかし、得失点差で東海ブロックに負けてしまいました。惜しくも優勝を逃してしまいました。この悔しさを忘れずに秋までの期間を大切に過ごし、少しでも良い結果が出せるように頑張りたいと思います。

野球部

第100回全国高等学校野球選手権記念大会
東東京大会ベスト16

感謝

野球部主将 3年6組 伊東 翼



右:伊東君、昨年度の準優勝カップ返還の様子

昨年の夏の大会は準優勝という結果で、今年は初の甲子園出場に向けて、周りの方々から期待の声をかけてもらうことが多く、高輪台野球部としても主将の自分も必ず優勝をして甲子園に出場をするという思いが強くありました。ですが、5回戦の帝京高校との試合に敗れてしまい、ベスト16という結果に終わりました。悔しい結果に終わりましたが、この夏の大会は120人の部員そして保護者、全員が一つになり戦うことができたのでよかったと思っています。ここまでやってくることができたのは、120人の仲間、2年半指導をしてくださった指導者の方々、両親、そして応援してくださった吹奏楽部、ダンス部、学校の先生方のおかげだと思っています。本当に感謝をしています。後輩たちにはこの悔しさを忘れずに甲子園に出場してもらいたいです。今後も野球部の応援をよろしくお願いします。

高輪カップ(卓球)・高輪ウィンドフェスティバル(吹奏楽)開催

男子 卓球の部

優勝	世田谷区立駒留中学校
準優勝	大田区立御園中学校
3位	戸田市立新曾中学校

参加校 16校

大田区立大森東中学校
大田区立志茂田中学校
大田区立御園中学校
江東区立深川第二中学校
江東区立深川第八中学校
渋谷区立広尾中学校

墨田区立寺島中学校
世田谷区立駒留中学校
世田谷区立千歳中学校
中野区立南中野中学校
練馬区立石神井南中学校
練馬区立貫井中学校

市川市立南行徳中学校
戸田市立新曾中学校
川崎市立富士見中学校
東海大学付属高輪台高等学校中等部

女子 卓球の部

優勝	大田区立御園中学校
準優勝	江東区立辰巳中学校
3位	中野区立南中野中学校

参加校 8校

大田区立大森東中学校
大田区立志茂田中学校
大田区立御園中学校

江東区立辰巳中学校
渋谷区立広尾中学校
中野区立南中野中学校

顧問 細田 功



男子優勝 世田谷区立駒留中学校

女子優勝 大田区立御園中学校



高輪台中等部

熱戦の様子

第13回高輪カップが7月16日(月・祝)、本校アリーナにおいて行われました。本校卓球部員の出身校を中心に、男子16校、女子8校が集まり熱戦が繰り広げられました。試合は、男女とも4チームによる予選リーグを行い、午後からは各ブロックの1・2位校、3・4位校によるトーナメントの試合が行われました。男子決勝戦は、駒留中学校が御園中学校を接戦の末、3対2で下し初優勝を果たしました。女子は御園中学校が予選リーグ、決勝トーナメントとともに3対2で辰巳中学校を下し初優勝しました。

本校中等部男子は、善戦むなしく予選リーグでは4位、午後からの3・4位トーナメントの1回戦では、深川第二中学校に2対3で惜しくも敗退してしまいました。部員の数が少なく1年生の多くが初心者ですが、日頃の練習の成果を発揮し、2年生は昨年以上に大きく成長した姿を見ることができました。

今大会が、各校顧問の先生方ならびに多くの方々のご協力により、無事終了できたことを心より感謝申し上げます。

吹奏楽の部

参加校 46校

【午前の部 24校】

町田市立木曾中学校

横須賀市立坂本中学校

江東区立砂町中学校

品川区立戸越台中学校

横浜市立希望が丘中学校

横浜市立宮崎中学校

川崎市立有馬中学校

江東区立第二大島中学校

大田区立東調布中学校

横浜市立日野南中学校

横浜市立保土ヶ谷中学校

横浜市立希望が丘中学校

横浜市立中田中学校

川崎市立田島中学校

川崎市立高津中学校

習志野市立第七中学校

横浜市立南希望が丘中学校
川崎市立宮崎中学校
川崎市立有馬中学校
江東区立第二大島中学校
大田区立東調布中学校
横浜市立日野南中学校

【午後の部 22校】

横浜市立希望が丘中学校

横浜市立中田中学校

新宿区立牛込第三中学校

さいたま市立大久保中学校

横浜市立荏田南中学校
川崎市立東橋中学校
市川市立第三中学校
横浜市立中川西中学校
千葉市立蘇我中学校
東海大学付属高輪台高等学校中等部

【午後の部 22校】

横浜市立希望が丘中学校

横浜市立中田中学校

新宿区立牛込第三中学校

さいたま市立大久保中学校

顧問 畠田 貴生



第10回高輪ウィンドフェスティバルが7月1日(日)に開催されました。

参加校は総勢46校で、本年も数多くの学校からお申し込みをいただきました。

当日は朝から本校アリーナにて素晴らしい熱演の連続で、中学校全体のレベルの向上を強く感じました。演奏者だけでも1,800人以上、そして数多くの保護者の皆様にご来校いただき、アリーナはほぼ満員となりました。

3人の講評員の先生方から貴重なアドバイスをいただき、夏の吹奏楽コンクールへ向けてさらなる努力を積み重ねていってくれることでしょう。

フェスティバルの最後には本校吹奏楽部のスペシャルコンサートを聴いていただきました。高校生の演奏に目を輝かせて聴いてくださる中学生の姿が大変印象的でした。会場の中学生、保護者の皆様からの大きな拍手をいただき、本校は無事終演を迎えました。

中学校の先生方からは「来年も楽しみにしています」との嬉しいお言葉を多くいただきました。また誘導や運搬のスタッフとして尽力する本校の生徒に対しては、中学校の保護者様からもたくさんの賞賛のお言葉をいただき、本当に誇らしく感じております。

今回も高輪ウィンドフェスティバル開催のために本当に多くの方々にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

SSH活動報告

学校代表の生徒たちが全国各地の発表会で研究・研究成果を披露

SS探究(課題研究)発表会、芝高課題研究発表会～ESDフォーラム～(7月10日～11日／新潟県新発田市)

2年8組 秋澤 雄生

5月のある日、昨年度の現代文明論発表会で最優秀賞をいただいた僕に「秋澤さんと一緒に新潟行こう!」と野口先生から声がかかった。新発田高校でプレゼンをしてほしい、1,000人の前で、しかも英語で、というミッションだった。

まあ翻訳機を使えばいいかとOKしたが、難しいテーマのせいか翻訳機では英語が成立しないという事態。そこで一から日本語で原稿を作り直し、電子辞書を片手に英文を作り、英語の先生を見つけて質問して原稿を完成させた。スライドは絵や写真、アニメーションで引きつけ、また文章は短いフレーズやキーワードだけにして、押さええておきたいポイントには日本語を加えた。そしてプレゼン練習は、サヨウ先生やネイティブの先生方に何度も何度も見てもらつた。

その甲斐あってか、発表当日は、インパクトがあって英語もわかりやすく、引き込まれたよといううれしい反響があり、たくさんの方から握手を求められた。今回の経験がこれから自分に大きくプラスになると確信した2日間だった。

SSH東海フェスタ2018(7月14日／名古屋市)

3年10組 加藤 季新

愛知県の名城大学天白キャンパスで行われた東海フェスタに参加しました。私は口頭発表部門で、現在取り組んでいるビオトープの研究発表をしました。その日、私は喉のコンディションが非常に悪く、直前までのど飴を服用していました。しかし、最後まで声がかかることもなく、無事に発表を終わらせることができました。また、発表を聞いた人から多くの質問や意見をいただくことができました。

前回、私はT-JSSFというタイプの研究発表会に出席しました。そして今回のフェスタにもプリンセス・チュラボーン・サイエンス・ハイスクールトラン校の生徒が参加していました。トラン校では卵の殻を使った燃料の開発をしており、英語で研究発表をしていました。このような国際連携が高校のうちからできることはとても素晴らしいことだと思います。しかし、今回の件で自身の英語力に不安を感じたので、これらのモラトリアムのうちに、積極的に英語でのコミュニケーションができるよう英語の学習により力を入れていきたいと思います。

SSH生徒交流会「高校生環境フォーラム」(7月21日／福井県小浜市)

1年7組 小松原 来未

夏休み前最後の日、環境フォーラムに参加するために福井に行った。私は普通クラス所属のため、課題研究について何もわからなかった。何も知らない、わからない状態でSSH企画の環境フォーラムに飛び込んだのだ。学校のメンバーとはまた違った雰囲気の高校生がいてたくさんのが学べた。いくつかのグループが舞台発表を行っていたがどれも先輩から研究を引き継いでいたり、長い間記録をとってあったりしててもレベルが高かった。私たちもポスター発表を行ったが、質問された内容が鋭いものばかりでとても刺激になった。また、発表の後に進行したディスカッションでは、現地や他の地域の高校生と直接関わることができた。ここでは課題研究することでどういう能力が身につけられるかということを話合った。それぞれ課題研究を持っている高校生だったので、さまざまな話を聞くことができて楽しかった。

今回の環境フォーラムではたくさん刺激を受けることができていい経験になったと思う。また、課題研究について興味を持つことができた。普段からさまざまなことに興味を持って生活していきたい。

SSH活動速報

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| 6月 2日 | サイエンス基礎 | リベラルサイエンス環境「私たちが暮らす地球」についての講義 |
| 6月 9日 | サイエンス基礎 | 更江涉先生(工研) 宇宙航空研究開発機構による宇宙環境・開発についての講義 |
| 6月11日 | アカデミックプレゼンテーションII | Finish writing, practice time |
| 6月15日～ | 公共科学論 | 数学科教員によるユニット授業「科学と数学と公共」の開始(全3回) |
| 6月16日～ | サイエンス基礎 | 国語表現演習「言語に関するミニ課題研究」の開始(全4回) |
| 6月18日～ | アカデミックプレゼンテーションII | Debate day(全3回) |
| 6月19日～ | 高校現代文明論 | 「現代文明の諸問題」リサーチ編の開始(全8回) |
| 6月21日 | サイエンス基礎 | 地質標本館・筑波宇宙センターの見学 |
| 6月22日 | サイエンス基礎 | リベラルサイエンス物理「電気エネルギー」についての講義と電気パンの実験 |
| 6月23日 | サイエンス基礎 | 星野一生先生(慶應義塾大学准教授)によるプラズマについての講義と実験 |
| 6月25日 | サイエンス基礎 | 那珂核融合研究所の見学と研究者との交流(キャリア教育として普通クラス生徒も参加) |
| 6月30日 | サイエンス基礎 | 岡野邦彦先生(慶應義塾大学教授)によるプラズマについての講義と燃料電池の実験 |
| 7月 2日～ | 課題実験 | 個別実験の開始(全17回) |
| 7月 9日 | 科学文明論II | 保健体育班による生殖医療に関するプレゼンテーション |
| 7月13日～ | 公共科学論 | 連携先:東海大学医学部付属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東邦大学医療センター大森病院、(株)北里コーポレーション |
| 7月13日 | 科学文明論II | 地理歴史・公民科教員によるユニット授業「科学と公共I」の開始(全3回) |
| 7月21日 | 科学普及活動 | 保健体育科教員による生殖医療に関するワークショップ |
| 8月 1日～ | 課題実験 | 鈴木恒則先生(元東海大学教授)によるファミリー科学教室のサポート(SSH委員) |
| 8月 6日～ | 企業連携 | 海洋調査研修船「望星丸」での採集・観測実習(自然環境分野選択者) |
| 8月27日～ | サイエンス基礎 | 帝人(株)、キヤノンエコロジーインダストリー(株)、日本ペイント・インダストリアルコーティングス(株)、大日本印刷(株)、総合警備保障(株)、加賀電子(株)、GSユアサ、サンコー・エア・セルテック(株)への訪問 |
| | | 科学体験学習旅行の成果に関するプレゼンテーション(全2回) |

第10回 中等部体育祭開催

6月22日に中等部体育祭が行われました。第10回の節目となる中等部体育祭は天候にも恵まれ、これまで以上に応援・競技ともに白熱しました。

体育祭実行委員長として

体育祭実行委員長 3年A組 佐藤 真洸

今回、体育祭実行委員長をやらせていただきました。体育祭実行委員長を務めるのは正直とても難しかったです。自分は人をまとめることが得意ではありませんが、今回の体育祭は責任のある立場でした。とても不安でしたが、他の実行委員がとても優秀で本当に支えられました。そして応援団の方々や部活動の代表の人たちが体育祭を盛り上げてくれたので、とても良い雰囲気の中で体育祭を行うことができました。本当にありがとうございました。そして一番嬉しかったことは、出席した中等部生の中であきらめたり、やる気がなかったりという人が一人もいなく、全力でやりきってくれたことです。体育祭は実行委員長だけでは支えることができません。中等部生全員が協力してくれたおかげで、思い出に残る良い体育祭になりました。皆さん、本当にありがとうございました。



行進賞☆3年A組



玉入れ



箱リレー



組体操



ボール運び競走



玉入れ



背渡りリレー



ダンス (2・3年女子)



おんぶ・二人三脚 障害物競走



部・同好会対抗リレー

赤組の応援団長を務めて

赤組応援団長 3年A組 飛田 桃

私は、中等部初の女応援団長を務めました。女が団長をやることは前例になかったため、批判されることもあり落ち込みましたが、その分絶対にやり切ろうと思いました。カッコいい応援団にしようと毎日放課後に応援団で集まり、練習をしました。私は今回3回目の応援団でしたが、今年はみんなをまとめる立場になり大変に思うこともありました。練習で人数が揃わないことが多く、はじめはうまくいきませんでした。練習では体の向きや手足の高さなど細かいところもしっかり揃うようにしたり、ダンスを見て教えて合ったりして、みんなができるようになるまで練習しました。そして練習を重ねていくうちに応援の声が出るようになり、ダンスも合うようになってきました。そして、本番前に円陣を組んで応援合戦は始まりました。

惜しくも優勝は逃しましたが、赤組で女団長を務めた経験は一生の良い思い出になりました。



赤組応援団(前列左から3番目:団長 飛田さん)

2回目の応援団長

白組応援団長 3年B組 緒方 大泰

私は、小学生の時も応援団長をやりました。結果、負けてしまい、悔しい思いで小学校最後の運動会が終わりました。中学でも応援団長をやりたいという想いがあったので、3年生になり団長になれても嬉しかったです。

小学校の時は、応援のやり方などをすべて先生が決めて教えてくださいました。しかし、中学では、どんな応援にするか自分たちで決め、それを1・2年生の応援団やみんなに教えなければならず、大勢の人をまとめる大変さを知りました。しかし、副団長や他の3年の応援団の皆に助けてもらい、優勝するという最高の形で体育祭を終えることができました。小学生の時は果たせなかつた「優勝」を中心部最後の体育祭で達成できて、とても嬉しかったです。

体育祭を振り返って思うことは、先生や友達、親のサポートがなかったら応援団長を最後までやり遂げられなかつたということです。皆に支えてもらい、ここまでこられたのでどこかでこの恩返しができたらいいと思います。



白組応援団(前列左から3番目:団長 緒方君)

努力を結果へ

1年A組 南川 凜

炎天下のもと、体育祭が行われました。人工芝での体育は新鮮で、走ったりするのがとても楽しみでした。そして、行進が始まりました。3年生の行進は勇壮な姿でかっこいいなあとと思いました。いよいよ1年の番がやってきました。母たちにかっこいいところを見せようと私は背筋を伸ばし、指の先までピシッと腕を伸ばしました。失敗せずに位置に着きました。

午前中さまざまな競技に出て、お昼ごはんのあとは部活動対抗リレーでした。文化部ではESS同好会が1位で、感激しました。そして、今まで練習してきた成果を見せるダンス、クリスタル・チルドレンを踊りました。私は始まる前に友達に「がんばろっか!」と言い、入場しました。母たちに見られるのは恥ずかしかったけれど、元気をふりしぶってミスなく踊れた達成感は今でも覚えています。

その後は、応援合戦で応援団としての自覚を持ち、赤組のために精いっぱい応援しました。3年生の勇ましい姿は思い出に残っています。

私はこの体育祭でクラスの団結力、そして中等部としての責任と自覚を感じました。惜しくも赤組は負けてしまいましたが、来年は今年よりも団結力を高めていきたいです。

逆転の体育祭

2年B組 内田 皓

体育祭の時期は梅雨だった。1週間前からずっと雨が降っていた。ニュースでも金曜日は雨となっていた。けれど中等部全学年でてて坊主を作り、当日は梅雨とは思えないほどの晴れやかな天気になった。

体育祭では応援団になった。僕はダンスは苦手な方だが、体育祭2週間くらい前からみんなと一緒に音に合わせながら練習に励んだ。当日、皆の前でダンスを踊り、緊張したけれど、中等部生活の良い思い出になった。

体育祭では応援団のほかに、全員リレーが印象に残っている。最初は白組が勝つか赤組が勝つかわからなかった。けれど、途中から白組がリードして半周くらいの差をつけて、僕にバトンが渡された。結果、1位を取ることができた。このことから学んだことは、最初は負けている試合でも頑張れば逆転できるということだ。この経験を忘れずに、これからもさまざまな面で頑張りたい。

作文コンテスト

中等部では今年も作文コンテストが行われました。

今回の課題は「学校生活で最優先すべきこと」です。皆それぞれの考えを50分という短い時間で作文にしました。ここでは、各学年のグランプリ作品を紹介します。



1年グランプリ

1年A組 関根 未莉

最優先すべきことは、思いやりだと思います。道徳の授業でも思いやりというテーマで勉強をしました。思いやりは、ルールとは違う自分から行動するものだと思っています。誰かが困っていたら助ける。悲しんでいたら助ける。どんな出来事でも思いやりを持って接することが大切です。例えば、お母さんの手伝いでゴミ捨てなどもそうです。学校では集団生活をしているのですから、喧嘩、暴力、いじめなど、絶対にしてはいけないことです。集団生活をしているという自覚を持って、思いやりを持ち、毎日楽しい学校生活を送っていきたいと思います。また、学校や家だけでなく、通学時などで知らない人にも思いやりを持つといいと思います。例えば、電車では、お年寄りの方がいたら席を譲ったり、迷っている人がいたら道を教えてあげるなどです。このようなことをすると毎日が楽しくなると思います。皆さんも思いやりを心がけてみてください。何かいいことがあるかもしれません。

2年グランプリ

2年B組 磯 亜衣凜

学校生活の中で最優先すべきことは、物事を学ぼうとする姿勢だと思います。もちろん、学校生活以外でも学ぶことや教えてもらうこともありますが、一番学ぶことが多いのは「学校で過ごしている日々の中で」だと思ったからです。

保育園などは人に優しくすることや友達の作り方など、小学生はひらがなや漢字、人との関わり方、頑張ることの大切さなど、中学生は知らない人でも学校でいさつすること、上下関係や世間のことよく知ることなどを学びます。学校というものがあり今の人間がいて、物事を学ぼうとする姿勢があるから、様々な知識を人間は持っています。もし、仮に学ぼうとする姿勢がなければ、何も入ってこないし、何もできはしない、大きくなてもまともな人間にはありません。

学ぶ姿勢さえあれば、仮に学校に行くことができなくても、普段の生活で多少の知識は学ぶことができます。

学校生活をする上で一番欠かせない、なくてはならないものは物事を学ぼうとする姿勢だと思います。

3年グランプリ

3年B組 山本 隼

私は学校生活の中で最優先すべきことは、「集団で行動すること」だと思います。勉強は家や塾でもできますし、友達と遊びたいなら学校ではないところで遊べばいいと思います。

しかし、「集団で行動する」ということは違います。決められたものを同じ時間、同じ場所で勉強して同じテストを受けます。お互いにできるところとできないところがあり、そこを皆で教え合い勉強ができるのは、集団で行動しているからこそです。

勉強以外もあります。体育祭や合唱祭などの得意・不得意が分かれるものもあります。普通に体育祭や合唱祭をするなら得意な人たちでやればいいのですが、学校生活では得意な人が苦手な人を助け支え合うことが大切なのです。学校のクラスの皆は、ピラミッドの一段なのです。一人が欠けると成り立ちません。

学校生活では、自分さえよければよいのではなく、皆で支え合うことが大切なのです。

1年

グランプリ A組 関根 未莉
準グランプリ B組 吉澤 咲良

2年

グランプリ B組 磯 亜衣凜
準グランプリ A組 上杉 彩華

3年

グランプリ B組 山本 隼
準グランプリ A組 岡野 愛美



左から 関根さん, 吉澤さん, 磯さん, 上杉さん, 山本君, 岡野さん

2018年度 小論文コンテスト

2018年5月15日(火)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「附属推薦小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。

今年度は『統計数理研究所「日本人の国民性調査」(2013年)』によると、「この1ヶ月の間に『いろいろ』したことがある」人の割合は、とくに20歳代・30歳代・40歳代の女性で高くなっています。なぜ20歳代・30歳代・40歳代の女性で割合が高くなっているのでしょうか。現代日本社会でこれらの人たちが置かれている状況に触れながら、あなたの考えを述べてください』というテーマでした(表は省略しています)。

1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、7月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。



左から 中野さん、牛山さん、木村さん、小梶さん

高校1年生 グランプリ

1年4組 中野 真琴

現代社会に於いていろいろしてしまうのは様々な要因があると感じるが、その中でも二十代から四十代の女性の割合が高くなっているのは、社会に出て働いている方が強いストレスを感じる場面が増えてきているからだと私は考える。

現在の安倍首相が打ち出した「一億総活躍社会」という政策の影響で、以前より女性の社会進出が活発になり、様々な職業に多くの女性が就職できるようになりました。しかしその裏で私が心配しているのが、今もなお色濃く残る男尊女卑の思想と長時間労働、それに男性の上司が権力を盾に女性の部下へセクハラ行為を行うことだ。例えば、せっかく入社をしても、女性だとうだけで仕事をもらえないったり、或いは事務作業や接客(営業)というような男性がやりたくない仕事を押しつけられたりといったことが少なくない。男性ばかりが重宝され、女性はその為の踏み台にされているようなものではないか。長時間労働やセクハラ問題に於いても同じだ。仕事をもらえず、やつと苦労して手に入れた仕事をも、それまでやってきたことが無いから手間取ってしまい、結果それをいいことに上司がさらに男性にできない仕事を多く押しつけたり、或いは性的嫌がらせをしたりする。「胸を触らせてくれた仕事を半分に減らすよ」だとか言って。それが強いストレスの原因になる。

このような社会のままで、いつまでたっても自殺(志願)者が減ることは無いだろう。

高校1年生 準グランプリ

1年10組 牛山 怜奈

現代社会は女性が活躍できる場を広げていくことを目指している。そのため既婚の女性であっても仕事を続ける人は多くなった。

しかし現実では子育てとの両立、女性差別等「いろいろ」の原因は様々だ。年齢別にみていくと、20代は就職したばかりで、自分の実力を認めてもらえない、上司からの女性差別もあるのだろう。30代になると結婚をし、子育てをする。保育園に入園できない、子育てがおろそかになってしまい、など仕事と育児の両立が難しくなってくる。保育園に入園できない人がいるから、保育園を建てる。しかし近隣住民が保育園の建設に反対していく予定が遅れてしまうという悪循環も原因の一つである。40代は働く女性だけでなく主婦も共通して親の介護がある。保育園同様、入居待ちの人が沢山いる。介護をしたくても重労働で、これ以上は限界だと思い入居しようと思ってどこも満員で入れない。そのことがストレスになっているのだろう。

保育園、老人ホームなど環境的な要因もあるが、他にもその人を取り巻く周囲の人々の理解度も関係してくる。理解を示してくれれば、ストレスも軽減し、「いろいろ」することも減ると思う。

現代日本社会は、もちろん女性が活躍できる場が沢山設かれていると思う。しかし、家事、育児、介護の負担、統計の結果からも分かるように今の社会は女性が生き生きと暮らせるわけではないのかもしれない。

高校2年生 グランプリ

2年9組 木村 真菜

何故、20代から40代の女性が「いろいろ」する割合が高いのか。私は主に、この年齢の女性たちがおかれている環境が原因だと思う。

第一に、働く女性たちの仕事場の雰囲気である。「男尊女卑」日本には昔からこののような言葉がある。女性の社会進出に伴い、昔より改善されたとはいえる、まだ完全になくなかったわけではないのが現状だ。当人たちにその気がなくても男性の多い職場では何気ない会話で不快快になり、上から目線の発言で苛ついてしまう女性は多いのではないか。

第二に、家庭の環境だ。掃除、洗濯、料理そして育児まで。これらを進んで手伝う男性はあまり多くない。且那は仕事して金をかせいでいるから家事は妻がすべきだ。と言う人もいるかもしれないが、それは傲慢すぎではないだろうか。言葉についても言えるだろう。男性が女性に「おい」など乱暴な言葉を使っても違和感をあまり感じないが、立場を逆にするとどうなるだろう。「えらそう」など感じる人が多いのではないだろうか。こうしてみると、男女の立場の認識の差が浮かびあがってくる。日本人はこれを無意識に長年続いている。それはつまり、このあつかいの差を自覚していないということに他ならない。

私は20代から40代の女性が「いろいろ」する割合が高いのは、主に「職場」「家庭」での無意識な男性との差別によるあつかいの違いによるものだと考える。

高校2年生 準グランプリ

2年1組 小梶 里奈

20歳代、30歳代、40歳代で「いろいろ」したことがある人の割合が高い理由は、まだ人生を歩んでいく中での経験が豊富ではないからだと思います。なぜなら、人や物、何に対してでも、いろいろするということはそのことに対して自分はこう思っているのに思い通りにならないといった内容が多いと思うのですが、そこでいろいろしてしまうのは心に余裕がないから、と思ったからです。心に余裕を持てば、「まあ、仕方がないか」など、優しい考え方を持てると思いました。そしていろいろするのではなく、また違った考え方を理解することができると思います。

次に、私は相手のことを考える力がないというのも原因に入ると思います。相手のことを考えてあげれば、彼は彼なりに頑張っているなど、いろいろではなく、相手の良いところに目がいくと思います。考える力の少ない20~40歳代の人は、相手がどんな努力をしているのか気づいてあげる前に、勝手に想像を膨らましてしまいます。そこが経験の差とも言えます。

私の考えた2つの理由には共通して心の余裕と相手の尊重といったことが入ると思います。高齢の方々はその点ではもうスペシャリストになるので、いろいろなどの感情を持つことが少ないのだと思います。世界中、年齢など関係なく全員が豊かな心を持てば、いろいろという感情に支配されることはないだろうと私は考えました。

学年だより 高1

学年集会

5月31日初めての学年集会を行いました。学年の一体感を作りたいという級長会の発案で、クラスや部活動以外の人たちと知り合うためのレクリエーションを実施しました。

8組 石井 海輝

今回の学年集会は、クラスの壁を越えて学年の人たちとの親睦を深めるために、級長会でレクリエーションを企画しました。始める前は「猛獣狩りへ行こうよ」なんて、小学生みたいだと言っていた人もいましたが、終わった後、案外楽しかったと言ってくれた人がたくさんいて、よかったと思いました。学年全員で行ったことで、学年目標である「協心毅力」を達成するためのつながりができたと思います。さらに学年が一丸となるよう、級長会が支えていきたいと思います。今後はスポーツ大会や建学祭などの行事を盛り上げ、日々みんなが気持ち良く過ごせる学校づくりを目指し、頑張りたいと思います。



第1回スポーツ大会(6月26日)

接戦の結果、4組が優勝、1組と6組が準優勝に輝きました。

優勝

4組 菊地 清太郎

高校に入学し、初のスポーツ大会で優勝することができたことをとてもうれしく思います。この大会はチームで事前に練習して挑むものではありません。一発勝負の中で、担任の先生とクラスの一人ひとりが一生懸命プレーをし、応援をし、協力し合うことで良い団結力が生まれ、その結果優勝という最高の成果を収めることができたのだと思います。このクラスの力を、今後さまざまな場面で発揮できるように頑張っていこうと思います。



準優勝

1組 高橋 駿介

今回のスポーツ大会では僕はフットサルに出場しました。クラスみんなで協力して1位を取ることができました。総合では2位でしたが、クラスの仲が深まってよかったです。次にある体育祭も冬のスポーツ大会も、クラスで1つの目標に向かってまとまることができると思います。



準優勝

6組 横山 新

私たち6組はクラスで一丸となり、準優勝という結果を残すことができました。梅雨を感じさせない晴天となり、とても暑い一日でしたが、一人ひとりが全力で競技に挑めたと思います。入学して約3ヶ月とは思えないほどのチームワークで、6組らしく元気に過ごすことができました。このクラスで過ごせる残りの時間を大切にし、次のスポーツ大会では優勝を目指したいと思います。



学年だより 高2

研修旅行①

2年生は6月21日から26日まで研修旅行に出かけてきました。今年度は北海道・沖縄・カナダ・ハワイの4コースに分かれ、普段の学校生活では得られない学びや体験を通じて新たな発見をしたり、友人との絆を深め、一回り大きくなつて帰ってきました。今月号では、カナダ・ハワイコースの感想をご紹介します。

カナダコース

6組 神谷 真子

私はカナダに行き、日本ではあまり経験することのできないようなことが体験でき、良い思い出をたくさん作ることができました。

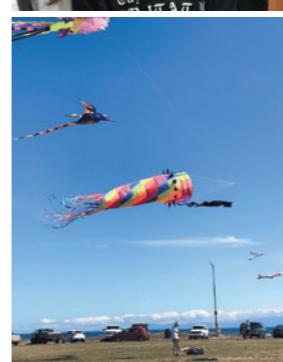
その一つはホームステイです。ビクトリアという町にホームステイをし、最初に小さな山に登りました。その山頂からビクトリアの町のすべてと大きな船を見ました。日本のようにまわりはビルばかりではなく、木々が見えるほど自然を多く感じられました。他にも、家の前が木であふれています。家で飼われているのではないかと思うくらい近くに鹿や兎がいました。

また、野生のアシカに餌やりをしました。お腹をたたきながら、餌をねだってくるアシカがかわいいかったです。野生の動物に餌をやるという体験は日本でできることではないので、とても良い体験ができたと思いました。

次に廻を見ました。私は日本しか廻揚げをしないと思っていたので驚きました。日本の伝統が外国に伝わっていることにも驚きました。しかし、日本とは少し違う廻だったので新鮮でした。

次に海にも行きました。崖ギリギリを歩きました。波がすぐ足元に見えていたので少し怖かったけれど、楽しかったです。日本ではこんなに近くで高めの波を見ることはできないだろうなど思い、良い思い出になりました。こんなに自然に触れる体験ができる、とてもいい思い出を作りました。今、日本では、自然が減っていて、自然に触れることが少なくなっているので、良い体験ができてよかったです。

カナダに行って、自然をたくさん感じられました。もちろん、英語も学んできましたが、同時にコミュニケーションの難しさを感じました。自分が思っているよりも話すことができなかつたので、もっと英語力を身につけて、また、どのように素晴らしい場所を訪れてみたいと思いました。



ハワイコース

8組 國分 康徳

僕は研修旅行でハワイへ行きました。そこでハワイと日本の文化や習慣の違いを学ぶことができました。

例えば、お店に入ったら必ずお客様も店員も互いに挨拶を交わします。ホテルで部屋を出る時には1ドルほどチップを置きます。このように、日本とハワイでは文化や習慣の違いがたくさんあり、とても驚きました。日本とは違ったハワイの文化に触れることができて、とても良い経験になりました。

また、ハワイの観光地などを訪れ、良い思い出もできました。

1日目は、ハワイ東海インターナショナルカレッジ(HTIC)へ行きました。大学生の方たちに、ハワイでの食事の時のマナーと伝統文化であるフラダンスを教えてもらいました。日本との食事のマナーの違いを知り、フラダンスを体験することができ楽しかったです。

2日目は、午前中にアリゾナ記念館、戦艦ミズーリを訪れました。第二次世界大戦で戦った人の苦しみなど戦争の爪痕が残っている所があり、ハワイの歴史を感じることができました。午後は、ダイヤモンドヘッドに登りました。片道0.8マイル(1.3キロ)あり、山道は平坦で岩山はきつかったです。山頂からの景色はとてもきれいで感動しました。

3日目は、シークレットアイランドへ行きました。カヌーやカヤック、ビーチバレーをしたりと楽しい時間を過ごすことができました。

4日目は、大学生の人と班行動で観光スポットであるカカアコウォールアートを訪れたり、ロイヤル・ハワイアン・センター



やアラモアナセンターでショッピングをしたりと、ハワイを満喫することができました。

この研修旅行でさまざまな人と交流し、ハワイの自然や歴史、文化に触れることができてとても貴重な経験をし、最高の思い出を作ることができました。

学年だより 高3

スポーツ大会

6月25日に本校アリーナにてスポーツ大会が行われました。各クラスが力を合わせて競技に挑み、より一層クラスの団結を深めることができました。

1組 井上 隼

3年生となり6月25日、今年度1回目のスポーツ大会が開催されました。白熱競技が行われる最中、左足をけがし離脱を余儀なくされた僕は応援に回りました。最後までクラスと戦えませんでしたが、1組は男子バスケで1位になりました。けがを忘れるほど熱い試合となり、見ていた僕も興奮しました。2回目のスポーツ大会では、けがをしないように気をつけて今回以上の活躍に期待したいものです。

3組 濑戸 涼太郎

今回のアリーナでのスポーツ大会では、改めてクラスの仲を深めることができました。毎回一番の盛り上がりを見せるバスケでは、今大会も白熱した試合が繰り広げられていました。またクラスごとに集まって応援する姿もとても素敵でした。クラスで同じ方向を向くということはとても素晴らしいことだと思います。勝つことはできませんでしたが、とても良い思い出になりました。

5組 宮崎 さくら

6月25日に今年度初めてのスポーツ大会が行われました。アリーナでの開催であったため、歓声と熱気が体から伝わってきました。クラス替えがなかったおかげで、昨年度のスポーツ大会以上にプレー中の掛け声が増したのだと思います。後期は高校生活最後のスポーツ大会なので、クラスのみんなの姿を目撃させておきたいです。

7組 大嶋 蒼太

僕は綱引きが一番印象に残りました。去年は初戦敗退でしたが、1回戦を突破しクラスに一層気合いが入りました。その後メンバーで作戦を立て、クラスの皆の応援も力になり見事3位になることができました。その結果総合でも1位に輝くことができました。高校最後のアリーナ大会で7組の良い思い出を作ることができ、よかったです。

9組 小澤 力丸

最後のアリーナでのスポーツ大会は、とても楽しむことができ、クラスの仲も一層良くなつたと思います。たとえ大人になったとしても、このスポーツ大会にかけた気持ちは忘れる事はありません。それほど今回のスポーツ大会は、一生の思い出になるものだと思います。



引張れ! 負けるな!!



今から試合頑張ります!!



華麗なドリブル! 抜き去るのか?!



お疲れ様でした。全員集合!

8組 本島 隼太朗

今回のスポーツ大会は最後のアリーナ大会なので、どの種目も熱気に溢れていてとても盛り上がっていました。特に今回は、毎回大人気のバスケットボールと同時進行の卓球も大いに盛り上がっていて、応援が二分割されるほどでした。勝ち負けが決まってしまうため、悔しい思いをする人もいましたが、それぞれの思い出に残る素晴らしい試合をしていたと思います。残りの学校行事もこれまで以上に盛り上がっていきたいです。

10組 岡本 翔星

今回のスポーツ大会も卓球に出場しました。10組では昨年同様4戦3勝という結果を収めることができました。この結果は、3年間クラス編成の変わらない10組だからこそなせるチームプレーや応援があった結果です。さいたまグラウンドではさらなる団結力を發揮し、好成績につなげたいです。

2018年度学校運営方針

5月号掲載の「2018年度学校運営方針」実践目標の英語教育について今月は紹介します。学校行事やニュースを本校HPでも紹介していますのでご覧ください。

2018年度の「実践目標」

実践的な英語を身につけ、国際社会に適応できるよう、英語教育の推進を図る

①TOEIC Bridge®からGTECへの移行に沿ったCALL指導方法の見直し。

②語彙力を高めさせる。

③多読を推進する。

④GTEC・英検・TOEIC®・TOEFL®等、各種資格の取得を勧め、指導する。

初等中等教育課で立ち上げた「英語力アップのための3つの宣言」実現のために本校では、2019年までに、中等部においては、英検3級以上合格者を60%以上、準2級以上合格者を20%以上、高校においてはTOEIC Bridge®134点以上(または、英検準2級以上)が60%以上を実現する。

⑤TOMASによるオンライン英会話の推奨。

⑥英語によるディベート・プレゼンテーションを指導する。

⑦海外の学校との交流を通して生きた英語力を身につけさせる。

*2019年度より、中高ともGTECを受験する予定です。



〈英語授業〉



〈イングリッシュ・サマー・キャンプ(中2)〉



〈オンライン英会話(希望者)〉

♦ パヤオ大学附属高等学校とMOU(覚書)を取り交わす ♦

7月25日、タイ王国のパヤオ大学附属高等学校と学術分野の交流を主目的としたMOU(覚書)を取り交わしました。パヤオ大学附属高等学校からパヤオ大学学長、パヤオ大学附属高等学校校長を含む4名、本校からは片桐校長はじめ東海大学グローバル推進本部長、初等中等教育部次長など6名が出席してMOUに署名をしました。パヤオ大学附属高等学校との交流は、2016年にタイにある東海大学のアセアンオフィスより紹介を受け、10月下旬に行っているSSHの成果報告会に約60名の生徒たちの訪問を受けスタートしました。成果報告会では、口頭発表、ポスター発表を行い、互いの研究内容を英語で伝えました。2017年も同様の交流を行い、今年度も10月の成果報告会に参加することになっています。本校からも2016年12月と今年の6月に、パヤオ大学附属高等学校を生徒が訪問して交流を行いました。



お知らせ

2018年度 第17回高校体育祭

●日 時: 9月28日(金) 9:30~16:00
 ※雨天時は授業日
 予備日:10月5日(金)、17日(水)

●場 所: 本校さいたま総合グラウンド
 埼玉県さいたま市浦和区大原5丁目4番



**行事
予定**

September 9月

- 1 日(土) 朝礼／避難訓練(3時限授業)
東海カルチャーセミナー
- 後援会委員総会②
- 4 日(火) 校医相談日⑥
- 11 日(火) 生徒自宅学習日
- 12 日(水) 専門医によるカウンセリング③
- 13 日(木) 生徒による授業評価アンケート②
生徒による学校評価アンケート①
- 14 日(金) 火曜日の授業
- 17 日(月) 敬老の日
- 18 日(火) 前期期末試験(中等部:~20日、高校:~21日)
- 21 日(金) 写生大会(中等部)
- 22 日(土) 生徒自宅学習日
- 23 日(日) 秋分の日
東海大学オープンキャンパス(高2:湘南校舎)
- 24 日(月) 振替休日
- 25 日(火) 答案返却
- 26 日(水) 生徒自宅学習日(~27日)
- 28 日(金) 第17回高校体育祭
(さいたま総合グラウンド、雨天時は授業日)
授業日(特別時程:中等部)
- 29 日(土) 短縮授業 保護者会②
保護者による学校評価アンケート

October 10月

- 1 日(月) 後期始業式 短縮授業
- 2 日(火) スポーツ大会(高3:さいたま総合グラウンド)
- 3 日(水) 塾教員対象学校説明見学会(高校)
- 4 日(木) 学年集会②(高1)
4時限授業(5・6時限カット)
- 5 日(金) 第17回高校体育祭予備日(雨天時は授業日)
- 6 日(土) 英検②1次試験(中等部:3・4時限)
- 7 日(日) 受験生・保護者対象学校説明見学会③(高校)
- 8 日(月) **体育の日**
- 9 日(火) 木曜日の授業
校医相談日⑥ 学校保健委員会② 安全衛生委員会②
- 10 日(水) 建学祭開祭式(7時限)
- 11 日(木) 建学祭準備(~12日)
- 13 日(土) 第54回建学祭(~14日)
- 15 日(月) 振替休日
- 16 日(火) 建学祭閉幕式
短縮4時限授業(5・6時限カット)
- 17 日(水) 第17回高校体育祭予備日(雨天時は授業日)
- 18 日(木) 学年集会②(高3・中3) 教育実習(~11月10日)
- 21 日(日) 東京私立中学・高等学校池袋進学相談会
(池袋サンシャインシティ)
- 25 日(木) 生徒会立会演説会(1時限 中等部:アリーナ、高校:放送)
- 27 日(土) 特別時程 SSH成果報告会
- 28 日(日) 受験生・保護者対象学校説明見学会④(中等部)

**編集
後記**

今年の夏も猛暑が続き、熱中症による健康被害が大きくニュースで報じられた。筆者の若かりし頃は、エアコンも普及しておらず炎天下での部活動や活動中の水分補給も許されなかった。今では至る所にエアコンが設置され、熱中症対策としてこまめな水分補給が奨励されている。温暖化の進行やヒートアイランド現象により気温が上昇しているのは事実であるが、そもそも人間が自然を破壊し、人間の体が自然に適応できなくなってきたのではなかろうか。快適な生活を求める一方で、自然について改めて考えてみてはいかがであろうか。(ほ)